

第 5 ・ 6 学 年 国 語 科

1 学年の目標

- (1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

2 指導の要点

話すこと・ 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。 ・ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ・ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。 ・ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ・ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 ・ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ・ 事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ・ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 ・ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ・ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ・ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 ・ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかみ読みすること。 ・ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ・ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ・ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章について，内容の大体を知り，音読すること。 ・古典について解説した文章を読み，昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ・話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 ・送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ・語句の構成，変化などについての理解を深め，また，語句の由来などに関心をもつこと。 ・文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 ・語感，言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 ・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 ・日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。 ・比喻（ゆ）や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ・第5学年及び第6学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ・仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。
-----------------------------	--

3 内容の取り扱い

(1) 「話すこと・聞くこと」について

- ① 高学年では，「的確に話す」こと，「相手の意図をつかみながら聞く」こと，「計画的に話し合う」ことが求められている。したがって，学習において，以下のような点に留意するべきである。
 - 話題は，学校や家庭及び地域で経験したことや，関心をもって考えたり調べたりしたこと，日常生活の中で考えたことや特に伝えたいと思うことなどから決めさせる。
 - 取材で得た知識や情報を比較したり，関連のあることをまとめたり分類したりして，話題を練り直し，目的や意図を明確にするよう指導する。
 - 話の構成には，「理由や事例」に加え，必要な文言や数値などを引用したり，図解したり，重要語句の定義付けをしたりするなどの工夫をさせる。
 - 場に応じた適切な言葉遣いをするために，同学年や異学年，全校児童や学校外の人々などを対象として，多様な場や相手に対して話すことができるような機会を設定する。
 - 話を聞くときには，話の目的や意図，伝えたいこと，共に考えたいことなど，相手の話の内容を十分聞き取らせる。また，取り上げられた内容について，自分の考えと比べ，共通点や相違点，関連して考えたことなどを整理して自分の考えをまとめることができるよう指導する。
 - 話し合いでは，グループや全体協議，討論などの場を設定し，互いの立場や意図をはっきりさせ，計画に沿って進めさせる。また，自主的な形による話し合い活動の場も多く設定する。

- ② 「話すこと・聞くこと」の指導内容については、次のような言語活動を通して指導する。

ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり，それらを聞いて助言や提案をしたりすること。
イ 調べたことやまとめたことについて，討論などを行うこと。
ウ 事物や人物を推薦したり，それを聞いたりすること。

(2) 「書くこと」について

- ① 高学年では，自分の考えたことなど，中心的な内容を明確にしながら，文章全体の構成を考えて表現する能力を育成することが求められている。したがって，学習において，以下のような点に留意するべきである。
- 家庭や地域，学校生活で感じたり考えたりしたことの中から，選択して書くことを決めさせる。
 - 取材の対象や方法としては，本や文章，パンフレットやリーフレット，雑誌や新聞，音声や映像，インタビューやアンケートなどさまざまなものを取り上げる。
 - 目的や意図に応じて，構成の型を効果的に用いて，自分の考え及び相手の理解が明確になるように文章を構成させる。
 - 事実と自分の感想，意見などを区別して書くことを重視させ，その目的や意図に応じて，詳しく書かせたり，簡単に書かせたりして，それぞれの記述の仕方を工夫させる。
 - 「引用」については，原文に正確に行うこと，引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすることを指導する。
 - 推敲に関しては，自己評価に加えて相互評価を積極的に取り入れる。
 - 互いが書き上げた文章のよさを感じ取り，相手に助言することによって自分の考えを深めたり自分の表現の参考にしたりできるように，書いたものを発表する場を設定する。
- ② 「書くこと」の指導内容については，次のような言語活動を通して指導する。

ア 経験したこと，想像したことなどを基に，詩や短歌，俳句をつくったり，物語や随筆などを書いたりすること。
イ 自分の課題について調べ，意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。
ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

(3) 「読むこと」について

- ① 高学年では，目的に応じ，内容や要旨を捉えながら読む能力を身に付けさせることをねらいとしている。そして，いろいろな目的に応じて計画的に読書を行うこと，複数の本や文章などについて，様々な読み方を身に付けることを目指している。したがって，学習において，以下のような点に留意するべきである。
- 音読では，語り手や登場人物などの人物像を明確にして，声の大きさ，声の質や速さ，間の取り方などに気を付けて読むことを指導する。
 - 朗読では，児童一人一人が自分なりに解釈したことや，関心をもったり感動したりしたことなどを，文章全体に対する思いや考えとしてまとめ，表現性を高めて読ませる。
 - 児童や学級の実態に応じて，音読や朗読の発表会，朗読劇や群読，身体的な表現なども交えた劇のような発表の仕方を工夫する。
 - 比べ読み，速読，拾い読み，多読などを取り入れ，目的に応じて，効果的な読み方を選択し，活用できるようにする。

- 説明的な文章の読み取りでは、文章の内容を的確に押さえるために、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などについて注意して読ませる。また、筆者の意図や思考を想定しながら、文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていくよう指導する。
- 文学的な文章の読み取りでは、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめさせる。優れた叙述については、一冊の本や一編の文章だけでは分かりにくいこともあるので、同じ作者や同じ題材の作品を比べて読むようにして、児童が自分で優れた叙述に気付くよう指導する。
- 本や文章を読んで考えたことを発表し合うときは、話し言葉による交流だけでなく、書きまとめたものを読み合ったり、読書発表会などをしたりする。
- 適切な本や文章を選ぶために、学校図書館やインターネットなどの利用に関する知識、情報モラルなどを身に付けさせる。

② 「読むこと」の指導内容については、次のような言語活動を通して指導する。

- ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。
- イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。
- ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。
- エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。

(4) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について

- 暗唱や群読を取り入れ、古文や漢文は、読んで楽しいものであること、自分を豊かにするものであることを実感できるよう指導を工夫する。また、古典を解説した文章を読ませることで、昔の人々の生活や文化など、古典の背景をできるだけ易しく理解させ、古典への興味・関心を深めさせる。そのために、能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎、落語などを鑑賞させることも考えられる。
- 「言葉の特徴やきまりに関する事項」では、話し言葉と書き言葉の違いに気付かせ、それぞれの特徴に配慮した使い分けができるようにする。
- 伝統的な言語文化に触れることによって、時間の経過による言葉の変化に気付き、自分たちの言葉への関心を深めるとともに、言語文化としての古典に親しみ、受け継いでいく態度を養う。また、世代や年齢、地方・地域による言葉の違いを知り、場に応じた適切な言葉遣いができるよう指導する。
- 語句の由来については、語源を調べさせたり、和語、漢語、外来語などの区別について関心をもたせたりできるよう指導を工夫する。
- 送り仮名については、一つ一つの具体的な語の送り仮名の指導をするだけでなく、活用語尾を送るという送り仮名の原則的な付け方についても指導する。
- 「表現の工夫に関する事項」では、具体的な表現の工夫には、比喻や反復などさまざまなものが考えられる。そこで、多様な文章に表れる様々な表現の工夫に気付かせ、自分の表現に活用できるようにする。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
国語への関心・ 意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、適切に話したり聞いたり書いたり、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする。
話す・聞く能力	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話したり、相手の意図をつかみながら聞いたり、計画的に話し合ったりする。
書く能力	目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書いている。
読む能力	目的に応じ、内容や要旨を捉えながら本や文章を読んでいる。
言語についての 知識・理解・技能	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を書く目的や要旨全体との関係、点画のつながりなどに注意して書いている。